



慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

【拡大研究会 No.2】

MERGE とそれを取りまく理論装置

【日時】 2018年7月21日(土)・22日(日) 13:00-18:30

【会場】 慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

人間の言語知識を理解しようとするミニマリスト・プログラムの試み(Chomsky 1995)では、その最小限の構成要因と目される Merge をめぐって、新たな議論が展開されつつあります。今年度は拡大研究会を複数回企画して、最前線の議論において何が問題となり今後どのようなことを考えるべきかについて、できるだけ深いレベルで理解することを目指します。拡大研究会 No.2 では、Valuation/Agree, Labeling, Transfer といった理論的な概念が MERGE を中心とする理論的枠組み(Chomsky 2013, 2015, 2017, Chomsky et al. 2017)においてどのように位置づけられ、経験的な言語事実を分析する際に、どのように活用されているかを検討します。具体的には以下の論文を取り上げ、それぞれの提案と分析をおさえるとともに、新たな展開を模索します。

第一日目

Saito, Mamoru (2017a) Japanese Wh-Phrases as Operators with Unspecified Quantificational Force. *Language and Linguistics* 18.1, 1-25.

Saito, Mamoru (2017b) Notes on the Locality of Anaphor Binding and A-Movement. *English Linguistics* 34, 1-33.

Saito, Mamoru (2017c) A Note on Transfer Domains. *Nanzan Linguistics* 12, 61-69.

第二日目

Bošković, Željko (2018) On Movement out of Moved Elements, Labels, and Phrases. *Linguistic Inquiry* 49, 247-282.

Citko, Barbara, Allison Germain, and Jacek Witkoś (2018) If you cannot Agree, Move on! On Labels and Non-Nominative Subjects. *Glossa* 3(1), 28. 1-46.

各日とも、以下の講師がそれぞれの論文になるべく沿った形で議論を進めますが、あらかじめ各論文に目を通して、疑問点や発展の方向性について検討しておくことをお勧めします。

講師： 瀧田健介(明海大学准教授)、小町将之(静岡大学准教授)

コメンテーター： 内堀朝子(日本大学教授)、北原久嗣(慶應義塾大学教授)

【お問い合わせ先】

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595(事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>